

## 令和5年度 地域活性化活動助成事業活動概要

### 『むつみ地域に元気を！ ～むつみっ子太鼓に挑戦してみよう～』

萩市立むつみ小学校

#### 1 はじめに

むつみ地域は標高 300m～400mにあり、高地の特性から冬は寒さも厳しく積雪も多い。肥沃な耕地に恵まれ、トマトや大根など多くの農産物を出荷している。学校教育に協力的で『子どもは地域の宝』という思いが強い。

人口は少ないが行事は多いよ」と自慢げに話される地域の方もおられるように、お祭りや運動会、ひまわりフェスタに駅伝等々、その熱い思いを身近に感じる機会も多い。学校も子どもたちも、「地域の一員としてできることは何か」を問いながら参加させていた

いている。  
子どもたちの姿を見ていただく発表の場も多い中、学校主体だけでなく、地域の方とのかかわりも深められ、より喜んでいただけることとして、全校で「竹太鼓」を取り組んでみることにした。きっかけは、低学年が生活科の学習で、地域の「奥阿武むつみ太鼓」の方から、本物の太鼓をさわらせていただいたことだった。叩けば全身に響く音に興味をもち、もっとやってみたいという思いをもったのだ。



#### 2 ねらい

地域行事に参加することを通して、元気を届けるとともに、地域の一員としての自覚や「伝える力」「ふるさとのよさを感じる心」を育てる。

#### 3 活動の実際

##### (1) 準備

隣接する保育園の倉庫に、使われなくなった古い竹があるとのこと。ひびはあるが使えるのでいただくことに。不足分については、地域の方が切り出してくれたことになった。子どもの身長に合わせた竹おき台も作っていただいた。

また、木製のバチでは割れてしまったため、塩ビパイプを切り分けてテープで補強したバチを職員で作成した。

竹太鼓だけでなく、活動助成事業により平太鼓や長胴太鼓を購入することができ、中学校から借用した太鼓も加え、演奏に厚みを加えることもできた。

0からのスタートのはずが、「やってみたい」という声をあげると、助けてくださる声



## (2) 練習

指導者：「奥阿武むつみ太鼓」の方（4名）

- ① 6月（2回）・・・バチの持ち方 叩き方  
基本の3種類のリズム
- ② 11月（2回）・・・曲に合わせた演奏  
動きを付ける振り付け

6月は、太鼓を叩く基本を繰り返した。「奥阿武むつみ太鼓」の方が練習に使う基本リズムの中の3種類を教えていただいた。「ドンツク ドンツク ドンツク ドン」と、口で唱えながら叩くと覚えやすいとのこと。子どもたちの声と指導者の声が重なる。

11月、いよいよイベントが近づき、本番の曲に合わせて、3つのリズムを組み合わせて行くことに。ここから、長胴太鼓や平太鼓が加わった。指導者の声かけも熱がこもってくる。毎回、「子どもたちと関わることがうれしい」「元気になる」と、あたたかいご指導をいただいた。



## (3) 「むつみ福祉・文化のつどい」での発表（12月）

衣装を身につけはちまきを締めた子どもたち。竹だけで始めた演奏は、長胴太鼓が加わることにより、より迫力が増し、曲調に合わせたメリハリや深みのある演奏となった。

200名近い来場者で埋まる会場に、太鼓の響きが広がりしっかり伝わったようである。



演奏後は、会場に大きな拍手と歓声、笑顔が広がった。「すごいね」「元気をもらったよ」と声をかけていただいた。

児童からは、「見ている方と心が一つになった気がした」「太鼓の音が届いてうれしかった」との感想があった。

## 4 成果と課題

本校では、ふるさと学習を柱とし、地域の自然や歴史、生活や文化に係る様々な学習活動において、地域の方とのつながりを生かした協働的な学びを大切にしている。

今回のむつみっ子太鼓への挑戦は、多くの人に元気を届け、地域の活性化の一助となったと感じている。

子どもたちに、自分たちの活動が地域のためになっていることに気付かせ、価値付けることで、主体的に考え行動できる力が身につくと信じている。

学校は、今後も地域と子どもたちの思いをつなぐ役割を果たしていきたい。